

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	A-134	13-003 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Parental monitoring and alcohol use among Mexican students. メキシコ人学生における親による監視と飲酒		
執筆者		
Strunin L, Díaz Martínez A, Díaz-Martínez LR, Heeren T, Kuranz S, Winter M, Hernández-Ávila CA, Fernández-Varela H, Solís-Torres C.		
掲載誌		
Addict Behav. 2013 Oct;38(10):2601-6. doi: 10.1016/j.addbeh.2013.06.011.		
キーワード		PMID
飲酒、若年メキシコ人、親による監視、性別、文化		23846177
要 旨		
目的： 親による監視は、若年者における薬物濫用予防の防御因子や有効な戦略として報告されている。本研究は、メキシコシティの公立高校生と大学生において、親による監視の認知が、飲酒頻度、飲酒開始年齢、問題飲酒に影響するかどうかを明らかにする。		
方法： メキシコシティにおける大規模公立の高校及び大学の 1 年生において横断的調査を行った。2008 年に、高校に入学した 34,840 人のうちの 28,996 人 (51.8%が女性)、大学に入学した 37,683 人のうち 30,084 人 (51.5%が女性) が飲酒調査に協力した。		
結果： 親による監視の認知が高かったものに比べ、低かったものでは問題飲酒の頻度が高かった (飲酒歴、頻回飲酒、早い飲酒開始年齢、高い AUDIT スコア)。親の監視の認知は女性で高かった。		
結論： アルコール濫用を防ぐ戦略としての親の監視についての研究がさらに必要である。		